


 一宮町長  
 馬淵 昌也

なので、どこかに行っても生き延びるのは難しいと思い、かわいそうなことをした、と思っております。

ところが、最近、ダイブツが実は元気に生き延びているらしいことがわかりました。洞庭湖方面にお住まいのかたのSNSを拝見していたら、「庭にうさぎがやってきます」ということで、動画がアップされていました。そこに映っていたのは、ダイブツそっくりの茶色いイェウサギでした。ぴょんぴょんこて、イェウサギ特有の歩みで、林の中を歩き来しています。もちろん、本当にダイブツかどうかは、捕まえて調べてみないとわかりません。しかしもともと日本にはいないうさぎだし、我が家からの距離から見ても、ダイブツがこちらに移動して森で暮らしていることは、大いにありうることです。なにより、大変かわいいた見た目が、ダイブツに違いないと、わたくしの家族を確信させました。

外来の生物が逃げ出して野生化するのには、もちろんよくないことです。ただ今回は、1頭だけで、繁殖はないと思います。逃げられたのは我が家のミスでしたが、幸せに森で一生を全うしてほしいと願っています。

数年前、わたくしの家では、うさぎを飼っていました。イエウサギという種類で、ピーターラビットのモデルになったうさぎです。息子がどつしても飼いたいというので、ペットショップで買ってきました。うす茶色で目が黒くて大きく、大変見た目のかわいいうさぎでした。息子が「大仏(ダイブツ)」という変わった名前をつけました。

本によると、うさぎはおとなしく、かわいがってやると人によく馴れて、なでもらおうと、ひざに入ってくるようになる、と書いてあります。ところが、ダイブツは見た目は大変可愛いのに気性はあらく、一向に人に馴れず、なでようとすると人の手に噛み付くこともありました。また、扉などもかじるので、あまりケージから出すこともできませんでした。

ずっとケージ内においてもかわいそうなので、首に鎖をつけて、庭に出してやることにしました。すると、地面に穴を掘って遊んだりして、楽しそうに過ごしますようになりました。しかし、大分たつたある晴れた日、わたくしどもが外出から帰ってくる時、ダイブツが鎖を引きちぎっていなくなっていたのです。日本にはもともと棲息していないうさぎ